

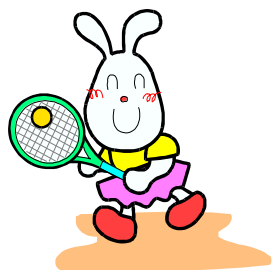
第3回NEC視覚ハンディキャップテニス ジュニア講習会

とき 2007年 9月30日 (日) 10:00～16:30

9時30分～10時	受付
10時～10時20分	講習会開会式
10時20分～10時40分	準備体操
10時45分～12時15分	ジュニア講習会
12時15分～13時45分	昼食・交流会・講演(武井実良選手)
13時45分～14時15分	デモンストレーション(トッププレイヤーのシングルス・ダブルス)
14時15分～14時30分	講習会閉会式
14時30分～16時30分	テニスの体験(どなたでも参加できます。)

ところ 東京都障害者総合スポーツセンター 北区十条台 1-2-2

TEL 03-3907-5631



主催 日本視覚ハンディキャップテニス協会

協賛 NEC社会貢献室

後援 毎日新聞社東京社会事業団
東京都
埼玉県教育委員会

協力 関東地域視覚ハンディキャップテニス協会
東京都障害者総合スポーツセンター
BIGLOBE
株式会社 川越スポーツ
ヨネックス株式会社

第3回 NEC 視覚ハンディキャップテニス ジュニア講習会へ ようこそ

日本視覚ハンディキャップテニス協会 会長 山本 栄治

皆さんこんにちは。本講習会も第3回目を迎えました。

2005年10月2日に川越で初めてのジュニア講習会を行って以来、少しずつではありますが、私たちのテニスが子どもたちの中に広がってきています。長年このテニスに関わってきたものの一人として大変うれしく思います。

このテニスは、一人の全盲の高校生のアイデアがきっかけとなって考案されたものです。視覚に障害のある人も障害のない人もわけへだてなくプレーしたいという彼の気持ちがこめられています。

コート内を何の心配もなく思いっきり走り回れること、コートさえあればいつでも・どこでも・誰とでも一緒にできること、そしてバウンドしているボールを捕らえたときのなんとも言えないヒット感、この3つがこのテニスの魅力だと私は考えています。

今日ここにお集まりの皆さんが、テニスの楽しさを感じ、ふれあいを深め、有意義な1日を過ごしていただければ、主催者として大変うれしく思います。

最後に、本講習会に協賛くださいましたNEC社会貢献室にこの場を借りて感謝申し上げます。



NEC社会貢献室からのメッセージ

秋山 星司

視覚ハンディキャップテニスを、当社の社会貢献活動の一環として、今年も支えることができることを誇りに思います。私は視覚ハンディキャップテニスを、2年前に松居先生や山本先生に紹介していただいて初めて知りました。音だけを頼りにボールを打ち返すこのスポーツの躍動性に驚きました。

また、昨年9月30日の講習会では、視覚ハンディキャップテニスを実際に体験させていただく機会にも恵まれ、このスポーツのおもしろさを実感させていただきました。

視覚に障がいを持つ子どもたちやそのご家族に、このスポーツを普及させて行くことは、とても社会的意義のあることだと思います。今年も講習会が実現できたのは、ひとえに協会関係者の皆様の熱意の賜物だと思います。繰り返しになりますが、このような意義深い活動を当社の社会貢献活動の一環として、支える機会をいただきましたことを心より感謝します。



視覚ハンディキャップテニスの楽しさをジュニアの皆様へ

関東地域視覚ハンディキャップテニス協会 会長 武井 実良

「チャラッ！チャラッ！チャラッ！パッコーン！」これって、何だかわかる？全盲の人がスポンジボールが3回バウンドした音を捕らえてラケットで打った情景だぜ！好きかってに打つんじゃないぜ！80センチメートルの高さに張ったネットの上をボールを通し、相手のコート内に打ち込むんだ。捏造じゃないぜ。本当の話だぜ。

武井っていうテニス大好き少年が、1984年から「目でボールが見えないんなら、耳でボールの音を聞き取れば、ラケットでボールを打てるんじゃないか？」なんて、盲学校の高校3年間は勉強に行くんじゃないかと、テニスの研究に行っていた。テニスに熱いやつがいたんだ。プラスチックボールに鉛球を入れるとどうだ？音の出るテニスボールの完成だ！しかし、ボールが弾まない、目に当たると危険等の問題点があった。

武井は、1988年にショートテニスのスポンジボールに出会った。しかし、その中に装着する音源に頭を痛めた。

的中した。サウンドテーブルテニスのボールをスポンジボールの中に装着してみたんだ。ばっちりだった！音質は最高に良かった！

このボールを使っての第1回視覚ハンディキャップテニス大会が1990年に開催された。

数年間は弱視プレーヤーが半分以上だったが、徐々に全盲プレーヤーが増えて来て、今では半分以上が全盲プレーヤーになっちゃったよ。全盲と全盲がテニスをやるんだぜ。「目が見えなくてもテニスをやりたーい！」って思っていた人が全国にいたんだねえ？

どうだい？君たち。テニスをやってみないかい？楽しいぜ！ボールが見える人はボールを見てラケットで打てば良いし、ボールが見えないのならボールの音を聞いてラケットで打てばいいわけだ。お互いにコミュニケーションの取りやすいスポーツだと、武井は確信しているよ。

さあ！ラケットを握れ！素振りをやろう！足腰を鍛えろ！明日の視覚ハンディキャップテニスをリードするのは君たちだ！

「チャラッ！チャラッ！チャラッ！パッコーン！」

テニスのタケ様 武井 実良



武井さんは、現在、B1(全盲)クラスのチャンピオンです。

1990年に所沢の国立身体障害者リハビリテーションセンターで行われた大会は、今年で18回目を迎えます。

今年は11月4日(日)に行われます。



視覚ハンディキャップテニス Q&A

Q 見えないのにどうしてボールが打てるのですか？

A ボールに工夫があります。スポンジボールの中を円形にくりぬいて、そこに盲人卓球用のピンポン球が入っているのです。ピンポン球の中に入っている鉛が音の秘密です。ボールは、黄色と黒の2種類です。

Q 普通のテニスとどんなところが違いますか？

A 普通のテニスの有効バウンド数は、1バウンド以内ですが、全盲(アイマスク着用)のB1クラスの場合、3バウンドまでに返球すればOK。弱視の場合は、視機能によって3つのクラスに分かれ、B2(手動弁から0.03未満、視野5度未満)とB3(視力0.03以上視野5度以上)が2バウンド以内。B4(視機能不問)は、1バウンド以内になっています。

また、コートは屋内で、バドミントンコートと同じ大きさです。ネットの高さは両サイド85センチ、中央80センチです。ラケットは、ショートテニス用または、ジュニア用硬式ラケットとし、全長22インチ(約56センチ)以下のものを使用します。ベースラインやセンターのラインの下に直径2ミリのたこ糸を入れ、足裏や手で自分の位置を確認できるようにしています。

Q いきなりボールが来ても取れないですね？

A サーバーは、「いきます。」の声をレシーバーにかけます。レシーバーの「はい」を聞いてから5秒以内にサーブを行うルールになっています。

Q どんなところがバリアフリーなんですか？

A 視覚障害者と健常者がペアを組む「ミックスダブルス」があります。卓球のダブルスと同じように視覚障害者と晴眼者が交互にボールを打ちます。また、ラケットが軽いこと、ボールがスポンジであることにより、幼児からシニアまで幅広い世代で楽しめることも特長です。

Q 見ているときに気をつけることはありますか？

A 観戦中のマナーですが、プレー中は静粛をお願いします。「音」が命のスポーツなので、ご協力をよろしくお願いいたします。ナイスショットが決まったときなど、プレーしていないときには、拍手を送ったり声をかけたりしてください。ただし、コート外からコーチングをすることは禁止されています。(審判にボールの落下地点等を聞くことはできます。)

Q なぜ、全盲のクラスもアイマスクをするのですか？

A 全盲といっても光を感じる人や、目の前で手の動きなどがわかる人もいます。フェアにプレーをするためにアイマスクの着用をすることになっています。



関東地域で活動するクラブの紹介

☆ブリndenテニスクラブ

1992年発足の歴史のあるクラブです。東京都多摩障害者スポーツセンターの体育室で活動しています。活動日は、毎週土曜日の9時から12時。

☆バリアフリーテニスクラブ

活動場所は東京都豊島区立清和小学校体育館。活動日時は、水曜日夜 18:30から21:30(不定期)です。テニスの発案者、武井さんが代表をつとめるクラブです。

☆東京ミラクルスターズ

葛飾盲学校の児童・生徒のクラブです。2007年5月26日設立。毎月第4土曜日の午前中を中心に活動しています。コーチ、ボランティアを募集しています。

☆クラブ310

2007年4月に発足したばかりです。活動場所は茨城県立盲学校。活動日時は、毎月第2土曜日、第4日曜日です。

☆川越リトルファンキーズ

2003年4月発足。活動は、毎月第3土曜日の9時30分から12時まで。埼玉盲の体育館で活動しています。

☆川越ファンキーズ

1998年発足。埼玉盲体育館で練習しています。練習日は、毎月第2日曜日、9時30分から4時30分、第3土曜日、1時30分から4時30分までです。

☆ラッピーフレンズ

2002年発足。「オアシス」で開かれたテニス教室がきっかけになって生まれました。活動日は、第1日曜日・第3土曜日の夜6時から8時30分。

☆ そのほか、茨城県支部、オレンジ(千葉県)、群馬庭球団が活動しています。栃木県にもクラブがあります。



見えなくてもテニスをやりたい！

東京ミラクルスターズ 代表 吉村 葉子

昨年、ジュニア講習会のポスターを見ました。「えー！テニスって目が見えなくてもできるの？」と思ったのがきっかけで、今年5月都立葛飾盲学校の生徒9人でクラブをたちあげました。目が見えないとなかなか健常児のように運動ができないし、一般のクラブにも入る事ができません。現在、ミラクルにはコーチがいません。コート作りから子ども達の指導まで、全て保護者がやります。コーチ・ボランティア常時募集中です。子供達は「みんなと一緒にできるから嬉しい！」と汗びっしょりになって頑張っています。保護者は「子供と一緒にいい汗流せて、最高のスポーツクラブ。でも終わった後は筋肉痛」。本当の手作りクラブです。

昨年、埼玉県立盲学校に見学に行った際、全盲のすごいプレーヤーに会いました。いつか子供達がそんなプレーヤーになってくれたらいいな…と今から思いを馳せています。



海外へ広がる視覚ハンディキャップテニス

川越リトルファンキーズ 代表 松居 綾子

視覚に障害があっても、身体って動かさないと丈夫にならないし、心だって元気にならない。スポーツを通じての友達だってほしいよね。ラケットとボールがあったら、世界のどこでもテニスでコミュニケーションができます！

身体を思い切り動かすこと、自由に走り回ること、汗をかくこと。小さいときにそういう経験をたくさんしてほしいと思います。いろいろな身体の動かし方を知り、たくさんの運動経験を積むことは、とても大切なことです。友達と一緒に練習すること、そして競い合うこと、相手を信頼すること、尊敬すること。スポーツはたくさんのかを教えてください。

2005年のジュニア講習会の後、NEC社会貢献室からイギリステニス財団と国際テニス連盟の関係者を紹介していただき、2006年1月にロンドンに行ってきました。その後、8月に再渡英。現地の視覚障害者とテニスをしてパラリンピック種目にするという夢をシェアしました。

2007年1月、プレーヤー5名(全盲4名、弱視1名)、通訳と私の7人でイギリスでのデモンストレーションを実現。9月には韓国のモッポ盲学校とハンティ盲学校で紹介。

海外では、驚きと感動をもって受け入れられています。視覚障害の人のテニスは不可能だと思われていましたから。不可能を可能にしたこの新しいスポーツを多くの人に知っていただき、一緒に楽しめたら素敵です。

★ 本講習会のために、株式会社川越スポーツ、ヨネックス株式会社より、ラケットのご協力をいただきました。